

【作家プロフィール】

1957 宮城県生まれ

1982 多摩美術大学美術学部絵画科日本画専攻 卒業

1984 多摩美術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻 修了

【主な個展・企画展】

2000 加藤弘光日本画展 電通恒産画廊(東京)

2001~2006 加藤弘光日本画展 ガレリア・グラフィカ bis.(東京)

2003 加藤弘光日本画展 田中八重洲画廊(東京)

2005 インパクトアートフェスティバル(京都市立美術館)

2006 現代美術国際展ペルピニャン(フランス、ペルピニャン)

 $2010 \sim 2018 \ \ \text{P-hx} + \text{Z} + \text{Z} + \text{Z} - \text{$

2011~2018 加藤弘光日本画展 ギャラリーコンセプト 21(東京)

2013 アートモナコ(モナコ)、KIAF(ソウル)

2015、2023 レッドドット アートフェア マイアミ(マイアミ)

2019 加藤弘光日本画展 日西センター美智子様ホール(スペイン、サラマンカ大学)

2019 LAアートショー(ロサンゼルス)

2020~2022 加藤弘光日本画展 FEI ART MUSIUM(横浜)

2022 36th チェルシー インターナショナル ファイン アート コンペティション(ニューヨーク)

2023 神の一枚 加藤弘光日本画展 京王プラザホテル ロビーギャラリー(東京)

2023 アウトサイド ザ ボックス(ニューヨーク)

2024 アートフェア東京

2024 天王洲セントラルタワー・アートホール(東京)

他多数



░加藤弘光_展 MESSAGE II

HIROMITSU KATO SOLO EXHIBITION

2024年3月18日(月)~4月12日(金)入場無料8:30~20:00(最終日は15:00まで)土・日・祝日休館

2019年4月10日、満開の桜の花が舞散る早朝に加藤弘光はこの世を去った。彼は自らを開拓者と語り、常に独自の表現、技法への研鑽を重ね、情熱を注ぎ、世界にその作品を発信してきた。既存の日本画の世界では異端とみなされようとも、常に未来を見据え、ただひたすら、筆を動かし続けた人生だった。新たな日本画の表現と唯一無二の世界を創り上げた彼の作品は、現在、海外のアートフェアを中心に、モダンアートとして高く評価され、革新的なアーティストとして認められている。美しいもの、命あるものへの畏敬の念を、ありとあらゆるものへの感謝の思いを筆に乗せ、魂を削るようにして表現し続けた。彼が遺した約100点の作品。そこに込められたメッセージを多くの方に届けるために、アトリエ・ヒロは活動を続けてきた。

加藤弘光が逝去してから5年。彼の生前を知る方も、彼の作品のみを知る方にも、様々な立場の方が縁を繋ぎ、再び巡ってきた桜の季節。ここ天王洲アートホールにて展示する機会を得ることができた。ここまで活動を支えてくれた方々に心からの感謝を捧げたい。「開拓者」加藤弘光の世界、どうぞ心ゆくまでご堪能ください。

